

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24330059

研究課題名(和文) ウェストファリア史観の脱構築：メタディシプリナリ・アプローチ

研究課題名(英文) Deconstructing Westphalian Narrative: A Meta-Disciplinary Approach

研究代表者

山下 範久 (Yamashita, Norihisa)

立命館大学・国際関係学部・教授

研究者番号：90333583

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、主として歴史的立場からの既存のウェストファリア史観批判を越えて、国際関係論に内在的にウェストファリア史観を脱思考するための新しい枠組みの基礎として、ウェストファリア史観の広義と狭義の区別、機能と発生の区別を導入したうえで、歴史の解釈権をめぐる国際関係の構造的過程のなかで言説的閉域としての国際関係論自体を批判的に再構成する分析をしめした。

研究成果の概要(英文)：This research, in overcoming previous attempts of debunking Westphalian Narrative mainly engaged by historians, introduced the conceptual distinctions between wider and narrower senses of Westphalian Narrative and between function and development of Westphalian Narrative to provide new analytical framework in which Westphalian Narrative should be unthought within the discipline of International Relations. The research provided a critical reconstruction of discursive closure of "International Relations" in the context of structural historical process of epistemic politics over legitimate interpretation of history.

研究分野：歴史社会学

キーワード：ウェストファリア史観

1. 研究開始当初の背景

国際関係論はいわゆるウエストファリア史観を前提として構築されてきた。また近年の国際システムの変容を「ウエストファリア体制の終焉」と捉える言説も広く流通している。しかし近年の歴史学の知見に照らせば、ウエストファリア体制を20世紀の国際システムの起源と捉えることについては、ヨーロッパ中心主義的な世界史観を批判する立場から、むしろ批判的な論調が強まっている。また国際関係論の内部からも、アイザック・ドイッチャー賞を受賞した Benno Teschke の『The Myth of 1648 (ベンノ・テシケ『近代国際体系の形成』)』のように、「ウエストファリア体制」という概念自体の没歴史性を明示的に批判する主張が現れている。

もしウエストファリア体制が歴史的事実の乏しい概念にすぎないのであれば、当然ながら「ウエストファリア体制の終焉」もまた一種のイデオロギー的主張でしかないことになる。本研究の眼目は、ウエストファリア史観が国際関係論の学知的前提として定着した過程を歴史化するとともに、現在変容しつつある近代的な国際システムの起源を、ヨーロッパ中心史観から解放して、より多元的でグローバルな枠組みのなかで再検討し、国際関係分析の史的前提となるパラダイムの刷新を図ることである。

本研究の代表者である山下範久は、2005～2007年度科学研究費補助金研究(基盤B)「グローバルヒストリーの構築とアジア世界」(大阪大学、代表秋田茂)、2009-2011年度科学研究費補助金研究(基盤B)「帝国・システム・海域ネットワーク:19世紀以前のアジアにおける広域地域史の再構築(立命館アジア太平洋大学、代表藤田加代子)にそれぞれ分担研究者として参加し、東アジアや南アジアなど非ヨーロッパ地域を対象とする広域史の立場からのグローバルヒストリーの構築の作業に携わってきた。

他方山下は、国際関係論と歴史社会学とを架橋する研究に取り組んで2008年には『現代帝国論』(2008年10月、NHK出版)を刊行し、2010年度には上記のテシケ教授を受け入れ教員として英国サセックス大学国際関係学部において一年間学外研究に従事し、ウエストファリア史観を歴史化するアプローチについて、同学の他の研究者および BISA (英国国際関係学会)の歴史社会学研究グループの研究者らと研究上の協力関係を構築してきた。

また分担研究者の遠藤誠治は、東京大学の酒井哲哉、北海道大学の遠藤乾らとともに、2006年度から2008年度にわたって、国際政治と思想史の交錯をテーマとする研究会を主宰し、同じく分担研究者の芝崎厚土、また山下範久も同研究会に参加した。同研究会では学知としての国際政治学への思想史的なアプローチがひとつの焦点となり、特に芝崎はこの点で大きな功績を挙げた。同研究会の

最終的な成果は『思想』(岩波書店)2009年4月号にまとめられた。

2. 研究の目的

本研究の本体となる検討課題は以下の三点である(より具体的には「研究計画・方法」の項を参照)。

(1)20世紀のアメリカにおける国際関係論のディシプリン化の過程で、ウエストファリア体制という概念がいかにして近代国際システムの起源としてパラダイムに定着したかについての学史的実証研究。

(2)ウエストファリア体制そのものの史的文脈である近世(17-18世紀)のヨーロッパの地域秩序を、同時代の他の地域秩序との比較および関係のなかにおいて捉えなおし、19世紀以降の国際システムの形成をウエストファリア体制の拡大延長ではなく、多元的な地域秩序間の相互作用の過程として分析する歴史社会学的研究。

(3)非欧米(特に日本)において、国際関係論のディシプリンが輸入/形成される際、ウエストファリア史観の受容や解釈が、既存の学知とどのような緊張関係を持ったか(あるいは持ち損ねたか)、そしてどのような規範的インプリケーションを持ったかについての思想史的研究。

くわえて、以上三点の検討を通じて、今日の国際システムの変容を「ウエストファリア体制の終焉」と捉える議論がもつイデオロギー性についても批判的な検討を行う。

3. 研究の方法

研究は、研究代表者の山下範久を全体統括に置き、その下に芝崎厚土、山下、與那覇潤がそれぞれ、国際関係論、歴史社会学、思想史学の分野責任者として、研究に協力を要請する各分野の内外の専門家との連携・調整やセミナーにおける各分野の運営・統括のイニシアティブをとる体制でスタートした。研究の進捗に伴って、国際関係論へのメタディシプリナリな批判に重心を移して目標の修正を行うとともに体制も変更し、山下、芝崎および安高啓朗をからなる統括班を中心として他の分担研究者および連携研究者からのフィードバックによって研究を進めた。

上記の体制のもとで、国際関係論におけるパラダイムとしてのウエストファリア史観を歴史化する共同実証学知研究を遂行し、その実証研究を土台として、ウエストファリア史観を非ヨーロッパ中心主義的観点から相対化する歴史社会学、思想史学の知見を撮取・検討するために、内外の専門研究者を招き、通算で二回の国際ワークショップ、五回の集中セミナー、八回の研究会を実施した。

その中間成果は世界政治研究会、および国際政治学会において発表され、そこでのフィードバックを踏まえて、論文集『ウエストファリア史観を脱構築する』(ナカニシヤ出版)として、2016年7月に出版される。

4. 研究成果

本研究はまず、既存のウエストファリア史

観批判の蓄積を総括し、それらが国際関係論に外在的な批判の域にとどまる一方、言説としての国際関係論には、一方で国際関係論を現実から距離化して「ウエストファリアの講和」を歴史としてではなく、モデルのラベルとして理解する立場、他方で国際関係論と現実の国際関係の相互構築を積極的に認めて、現実のほうに「ウエストファリア史観」自体にあわせて統制されていることを強調する立場の両極から、そうした外在的批判を無力化する構造が具わっていることを分析的に明らかにした。

ふまえて、ウエストファリア史観を国際関係論に内在的に批判する新しい枠組みの基礎として、ウエストファリア史観の広義と狭義の区別、機能と発生の区別を導入したうえで、歴史の解釈権をめぐる国際関係の構造的過程のなかで言説的閉域としての国際関係論自体を批判的に再構成する分析をしめた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計11件)

Hiroaki Ataka, Geopolitics or Geobody Politics? Understanding the Rise of China and Its Actions in the South China Sea, Asian Journals of Peacebuilding, 査読有, 4-1, 2016, 印刷中

西平等, 古典的国際法学との対照における国際政治学的思考の特質、関西大学法学論集、査読無、65-2、2015、1-29

芝崎厚土、国際関係研究の将来、年報政治学、査読無、2015-、2015、138-169

奈良勝司、小笠原長行と「公議」、唐津統治期を中心に、立命館大学人文科学研究紀要、査読無、105、2015、3-36

遠藤誠治、東アジア国際秩序変動と安倍政権の安全保障政策、生活経済政策、査読無、211、2014、5-11

西平等、国際法学における安全保障構想の系譜、法律時報、査読無、1077、2014、59-65

奈良勝司、近代日本形成期における意思決定の位相と「公議」、日本史研究、査読無、618、2014、143-174

芝崎厚土、From Study of International Relations to the Study of Global Relations: Possible Roles of the Study of International Relations in the Distant Future, Journal of Global Media Studies, 査読無、13、2014、43-58

山下範久、資本主義と民主主義、比較文明、査読無、29、2013、43-60

奈良勝司、近現代二幕末・維新时期(2012年の歴史学 回顧と展望)、史学雑誌、査読無、122-5、2013、150-152

奈良勝司、明治維新における「主権」と「国民」、日本歴史研究、査読有、38、2013、35-57

[学会発表](計13件)

Seiji Endo, In Search of Peaceful Co-existence in Northeast Asia, 61st Pugwash Conference on Science and World Affairs, 2015年11月4日、やすらぎ伊王島(長崎県長崎市)

遠藤誠治、積極的平和主義の批判的検証、日本政治学会、2015年10月11日、千葉大学(千葉県千葉市)

Hiroaki Ataka, "Peaceful Rise" of China? Identity Politics in East Asia, 日本平和学会 2015年度春季研究大会、2015年7月19日、JMS Aster Plaza(広島県広島市)

Hiroaki Ataka, The "Peaceful Rise" of China Discourse and Its Performative Consequences, The Asian Conference on Asian Studies, 2015年5月29日、The Art Center of Kobe(兵庫県神戸市)

山下範久、芝崎厚土、安高啓朗、ウエストファリア史観の脱構築：理論・言説・歴史、日本国際政治学会、2014年11月14日、福岡国際会議場(福岡県福岡市)

山下範久、芝崎厚土、安高啓朗、ウエストファリア史観を脱構築する：試論的考察、世界政治研究会、2014年9月26日、東京大学本郷キャンパス山上会館(東京都文京区)

Norihisa Yamashita, The "Long 20th Century" and Japan as a Non-Axial Civilization, The European Association for Japanese Studies, 2014年8月28日、リュブリャナ大学(スロベニア、リュブリャナ市)

奈良勝司、維新政権の世界認識、The European Association for Japanese Studies, 2014年8月28日、リュブリャナ大学(スロベニア、リュブリャナ市)

山下範久、国際関係論と領域主義、政治思想学会、2014年5月24日、関西大学(大阪府吹田市)

西平等、秩序の闕 非地政学的志向としてのカール・シュミットの圏域理論、政治思

想学会、2014年5月24日、関西大学(大阪府吹田市)

Horoaki Ataka, Non-Western IR, Civilizational Histories, and the Problem of Historical Narratives, 2013 Millenium Annual Conference, 2013年10月20日、London School of Economics(ロンドン、イギリス)

芝崎厚土、近現代日本における対外文化政策思想の形成と展開：戦前・戦後・冷戦後、日本国際文化学会第12回全国大会、2013年7月7日、龍谷大学大宮キャンパス(京都府、京都市)

奈良勝司、明治維新における「主権」と「国民」、韓国日本近代学会第27回大会、2013年5月4日、東義大学校(釜山、韓国)

〔図書〕(計15件)

山下範久、芝崎厚土、安高啓朗、ナカニシヤ出版、ウェストファリア史観を脱構築する、2016、272(印刷中)

遠藤誠治、岩波書店、日本の安全保障2 日米安保と自衛隊、2015、340

芝崎厚土、岩波書店、国際関係の思想史、2015、320

遠藤誠治、岩波書店、日本の安全保障1 安全保障とは何か、2014、318

水野和夫・川島博之、東洋経済新報社、世界史の中の資本主義：エネルギー、食料、国家はどうなるか、2013、268(177-224)

山田智・黒川みどり、勉誠出版、内藤湖南とアジア認識 日本近現代思想史からみる、2013、320(161-204)

末木文美土、黒住真、佐藤弘夫、田尻祐一郎、ペリカン社、日本思想史講座4 近代、2013、416(221-256)

猪口孝、袴田茂樹、鈴木隆、浅羽祐樹、ミネルヴァ書房、環日本海国際政治経済論、2013、314(193-210)

苅部直、岩波書店、岩波講座日本の思想第6巻秩序と規範、2013、320(249-266)

平野健一郎、古田和子、土田哲夫、川村陶子、東京大学出版会、国際文化関係史研究、2013、554(128-150)

酒井哲哉、岩波書店、日本の外交第三巻外交思想、2013、320(125-150)

佐藤誠、大中真、池田文佑、日本経済評論社、英国学派の国際関係論、2013、278(112-129)

與那覇潤、集英社インターナショナル、日本人はなぜ存在するか、2013、189

與那覇潤、太田出版、日本の起源、2013、360

與那覇潤、新潮社、史論の復権 與那覇潤対論集、2013、237

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山下 範久 (YAMASHITA, Norihisa)
立命館大学・国際関係学部・教授
研究者番号：90333583

(2) 研究分担者

芝崎 厚土 (SHIBASAKI, Atsushi)
駒沢大学・グローバルメディアスタディーズ学部・准教授
研究者番号：10345069

與那覇 潤 (YONAHA, Jun)
愛知県立大学・日本文化学部・准教授
研究者番号：50468237

遠藤 誠治 (ENDO, Seiji)
成蹊大学・法学部・教授
研究者番号：60203668

安高 啓朗 (ATAKA, Hiroyuki)
立命館大学・国際関係学部・准教授
研究者番号：90611111

西 平等 (NISHI, Taira)
関西大学・法学部・教授
研究者番号：60323656

(3)連携研究者
奈良 勝司 (NARA, Katsushi)
立命館大学・文学部・助教
研究者番号：90535874